

氏 名 : 猿 田 了 子
学 位 の 種 類 : 博 士 (健 康 科 学)
学 位 記 番 号 : 研 博 第 40 号
学 位 記 授 与 年 月 日 : 平 成 30 年 3 月 7 日
学 位 授 与 の 要 件 : 学 位 規 則 第 4 条 1 号 該 当
論 文 題 目 : 助 産 師 の キ ャ リ ア の 節 目 に 関 す る 研 究
論 文 審 査 委 員 : 主 査 上 泉 和 子
副 査 大 関 信 子
副 査 石 井 範 子

論 文 内 容 の 要 旨

I はじめに

少子化や出産の医療化による周産期医療の変化により、助産師の職業的アイデンティティの核となる助産の分野で助産師が専門性を発揮しているとはいいがたい状況になっている。職業生活の中で助産師としての役割が果たせていない、専門性を十分発揮できる環境にいないことによる業務内容に対する迷いや行き詰まりは、キャリアの危機を招くこととなる。助産師は、様々なキャリアの転換に係る体験をしながら、節目を迎えていることが予測されるが、助産師にとってモチベーションが低下するような節目 (transition) は、いわゆるキャリアの危機といえる。

そこで、周産期医療の変化により助産師に起こっている、助産師としての役割を果たせていない、あるいは果たせる職場に所属していない状況をキャリアの危機ととらえ、キャリアの危機を中心に、遭遇した職業上の節目・転機がどのような教訓につながっているのかを明らかにすることを目的とする。

II 研究方法と対象

研究デザインは質的帰納的研究であり、半構造化面接法を実施し、フェイスシートの質問紙調査を併せて行った。研究対象者は、研究の趣旨に同意したネットワークサンプリングにより選定した助産師 17 名である。分析方法は、信頼性を確保できる Berelson,B.の内容分析の手法を用いてカテゴリーを抽出し概念化した。

III 結 果

1. 助産師のキャリアの節目に関するカテゴリー、サブカテゴリー、コード数(比率)と一

致率について

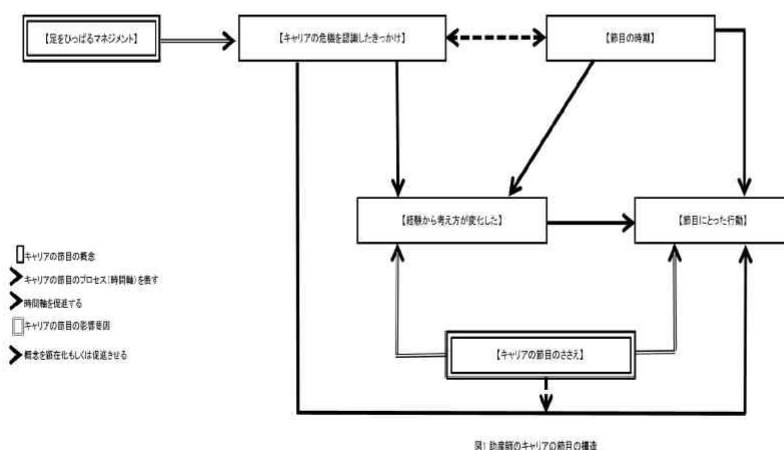
助産師のキャリアの節目は854コードが抽出され意味の類似性にしがいい分類した結果、40サブカテゴリーからなる【節目の時期】【キャリアの危機を認識したきっかけ】【節目にとった行動】【経験から考え方が変化した】【キャリアの節目のささえ】【足をひっぱるマネジメント】の6カテゴリーが生成された。信頼性を確認するために、分析者以外の第三者である助産師2名に再現性を確認した。一致率をスコットの式を用いて算出したところ、91%、88%となり、カテゴリーの信頼性は確保された。

2. 各カテゴリー、サブカテゴリーの定義と教訓との関係

【節目の時期】は、それまでの状況から変化を余儀なくされたキャリアの節目と認識した時と定義し、3つのサブカテゴリーと3つの教訓があげられた。【キャリアの危機を認識したきっかけ】は、自分は助産師なのに何をやっているんだろうというどん詰まり感や閉塞感をもつという認識にいたる出来事と定義し、10のサブカテゴリーと16の教訓があった。【経験から考え方が変化した】は、経験をリフレクションし、次に活かす事ができるような考え方と定義し、7つのサブカテゴリーと16の教訓があった。【節目にとった行動】は、8つのサブカテゴリーと7つの教訓があった。また、【キャリアの節目のささえ】は、キャリアの危機の状況から再起させた人、言葉と定義し、8つのサブカテゴリーと4つの教訓があった。【足をひっぱるマネジメント】は、上司が組織の中で助産師がうまく機能し成果をあげることを目的に働きかけることだが、うまく機能していない状態と定義し、4つのサブカテゴリーと3つの教訓があげられた。

3. 助産師のキャリアの節目の構造

4つのキャリアの節目の概念と2つのキャリアの節目の影響要因が生成され、それぞれの概念と関係し影響を与えていた(図1)。また、キャリアの危機と認識する様々な節目の体験から教訓を得るという構造になっていた。



IV 考察

助産師のキャリアの節目の時期は、キャリアの危機を認識したきっかけと関係し、助産師としての職業的アイデンティティのゆらぎにつながっていた。節目の経験をリフレクションすることで考え方が変わ

り、職業的アイデンティティを強めることになっていた。更にささえとなる人や言葉は助産師の職業的アイデンティティを強化するものであり、節目にとった行動では、職業的ア

アイデンティティのゆらぎはなく確固たるものになっていた。助産師は、足をひっぱるマネジメントというネガティブな感覚を持っており、職業的アイデンティティを活かすマネジメントを望んでいた。助産師にとってキャリアの節目は、単なる危機の経験ではなくプロフェッションとして

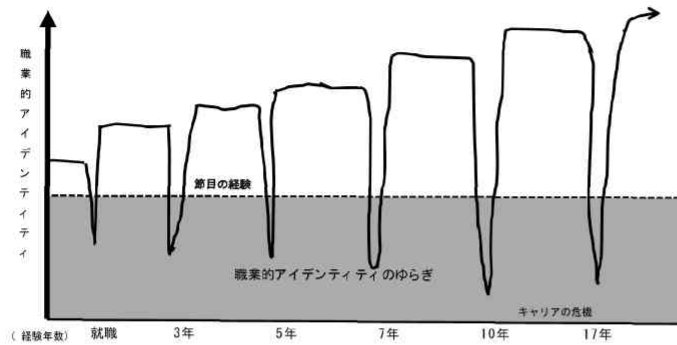


図2 逆境で成長する助産師のアイデンティティ

の成長につながると同時に教訓からプロフェッションフード（専門職としての一人一人が持つ特質）の要素を備えていた。

助産師のキャリアの節目の経験は職業的アイデンティティが段階的に成長するのではなく劇的な変化をみせ、人間的成長を

伴う最大のキャリアチャンスとなる貴重な意味を持つものであった（図2）。

論文審査結果の要旨

少子化等に伴う周産期医療の変化は、助産師の働く場の統合や再編等をもたらし、助産師のキャリア開発への影響が危惧されている。本研究はこうした背景をキャリアの危機ととらえ、危機に遭遇した助産師のキャリアの転機（節目）の経験と教訓を明らかにすることを目的に質的方法を用いて行われた。キャリアの節目に関する11のカテゴリと教訓が確認された。助産師は逆境ともいえるキャリアの危機という節目の経験から、職業的アイデンティティがさらに深まり成長につながることが導き出された。

本論文においては、職業的アイデンティティとキャリアとの関連、また他職種あるいは一般的職業人の節目について言及することで、より深い考察につながるとの評価であった。